



リトアニア共和国 (Republic of the Lithuania)



- リトアニアへの援助総額は累計15億100万円。
- 日本は、文化無償資金協力や技術協力を中心に協力を実施。特に文化無償資金協力はリトアニアの教育・文化振興に長年貢献し、同国のアイデンティティ確立にも寄与したことから、現地の評価も高い。

国概要

(基礎データ)

- 面積: 6.5万平方キロメートル(茨城県と同程度)
- 人口: 291.6万人(2015年3月, リトアニア統計局)
- 首都: ビリニウス(首都圏人口約54万人)(2015年)
- 民族: リトアニア系(86.7%), ポーランド系(5.6%)
ロシア系(4.8%), その他(2.9%)
- 言語: リトアニア語
- 宗教: 主としてカトリック
- 政体: 共和制
- 議会: 一院制(141議席)
- GNP: 約461億ドル(2014年, 国連統計部)
- 一人あたりGNI: 15,813ドル(2014年, 国連統計部)
- 経済成長率: 1.6%(2015年, 世界銀行)
- 失業率: 9.1%(2015年, EUROSTAT)

※特に注がない場合は外務省ホームページをもとに記載。

(略史)

1253年	ミンダウガス大公がリトアニア国王となる
1386年	ヨガイ王, ポーランド王を兼ねる (リトアニア・ポーランド同君連合)
1569年	ポーランドと連合国家(二民族一共和国)
1795年	第3次三国分割により大部分がロシア領となる
1918年	独立を宣言
1920年	ソ連より独立
1940年	ソ連に併合
1990年	共和国最高会議選挙 独立回復宣言
1991年	ソ連国家評議会バルト三共和国の国家独立に関する決定を採択
2004年	NATO加盟, EU加盟
2015年	ユーロ導入

援助実績

スキーム	額(累計)／人数(延べ)
無償資金協力	3.89億円 (2008年度末時点)
技術協力	11.12億円 (2008年度末時点)

出典: ODA国別データブック2015
青年海外協力隊事務局統計(平成28年6月末)
(注) 青年海外協力隊には、短期派遣ボランティアを含む。



グロウジニエネ・リトアニア共和国国会議長
による安倍総理表敬(2016年3月2日)

経済関係

スキーム	金額／人数(直近年)
日本からリトアニアへの輸出	3,846万ユーロ (2015年, リトアニア統計局)
リトアニアから日本への輸出	4,874万ユーロ (2015年, リトアニア統計局)
在リトアニア日系企業数	9社 (2016年7月, 外務省)
日本企業現地法人の雇用数	847人 (2016年7月, 外務省)

人的つながり

項目	人数(直近年)
リトアニアにおける在留邦人数	77人(2016年9月, 外務省)
在日リトアニア人数	772人(2015年12月, 法務省)
リトアニアから日本への留学生数	56名以上 (2015年5月, 独JASSO)
日本からリトアニアへの観光客数	21,118人 (2015年, リトアニア統計局)
リトアニアから日本への観光客数	3,800人(2015年, 日本入管統計)

日本とリトアニア共和国との協力年表

年代	案件
1939年	カウナス(当時の暫定首都)に領事館を開設し、杉原千畝副領事が勤務
1940年	ソ連によるリトアニアの併合に伴い同領事館を閉鎖
1991年	9月、リトアニアのソ連からの独立に際し、日本はバルト三国に政府ミッションを派遣し、バルト三国の平和裡の独立に関し支持を表明、10月10日に外交関係開設
1992年	在デンマーク日本国大使館が兼轄開始
1996年	1月、在リトアニア日本国大使館開設
1997年度	チュルリオーニス国立美術館に対する視聴覚機材供与の無償資金協力(5,000万円)
1999年	3月、駐日リトアニア大使館開設 マルティナス・マジュヴィダス国立図書館に対する視聴覚機材供与の無償資金協力(約4,700万円)
2000年度	ビリニウス大学に対する日本語学習機材供与の無償資金協力(約3,600万円)
2001年度	ヴィタウタス・マグナス大学に対する日本語学習機材供与の無償資金協力(約2,800万円)
2002年度	リトアニア音楽アカデミーに対する楽器供与の無償資金協力(4,900万円)
2003年度	リトアニア国立博物館に対する調査・保存機材供与の無償資金協力(約4,400万円)
2004年度	リトアニア国立オペラ・バレエ劇場に対する音響機材供与の無償資金協力(4,900万円)
2005年度	リトアニア美術館に対する視聴覚機材供与の無償資金協力(3,000万円) リトアニア国立交響楽団に対する楽器供与の無償資金協力(4,400万円)
2006年度	カウナス杉原記念館博物館修復及び視聴覚・展示機材整備の無償資金協力(約900万円)
-2007年度までの累計	研修員受入(114名)、専門家派遣(10名)、調査団派遣(105名)、機材供与(4,200万円)の技術協力(累計11億1,200万円)

(2008年度以降の新規ODA実績はない)



水彩画修復機材。考古学品や古代絵画の保存・調査に活用



日本が戦前領事館として使用した建物が現在杉原記念館として一般公開。本省との電信記録等の貴重な資料の展示パネル等を提供。杉原記念館運営維持に貢献。



杉原副領事発給の査証で生き延びたアドモニ氏と、杉原記念館における自身の幼少期のパネル



杉原千畝副領事